

【概要】

2027年国際園芸博覧会(GREEN×EXPO 2027)
における横浜市発信拠点での先端技術の
展示体験に関する協賛募集要項

脱炭素・GREEN×EXPO推進局GREEN×EXPO推進課

GREEN×EXPO 2027 概要

2027年国際園芸博覧会(以下、「GREEN×EXPO 2027」という。)は、「幸せを創る明日の風景」というテーマのもと、自然・人・社会が共に持続するための最適解を発信し、持続可能な地域・経済の創造や社会的な課題解決に貢献する新たな博覧会を目指しています。

全体概要

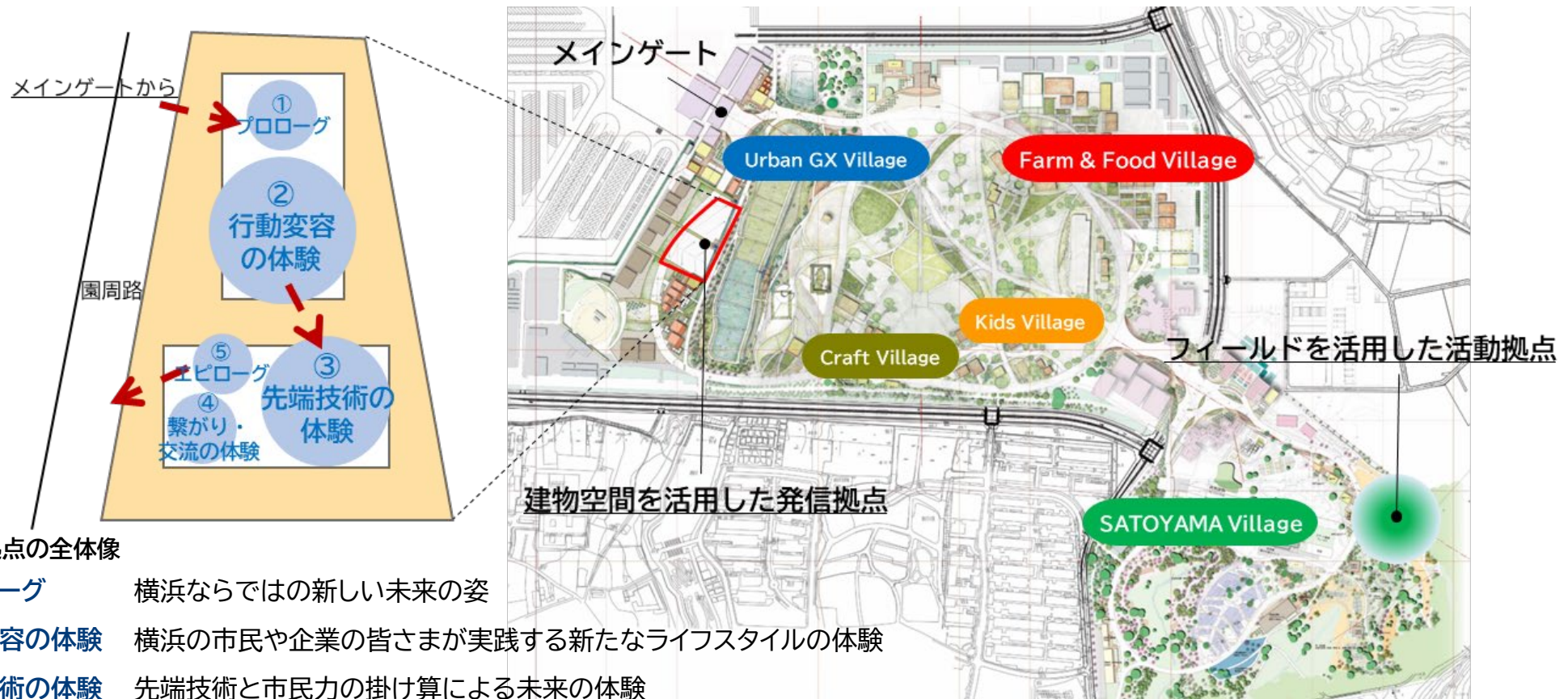
- 名称：2027年国際園芸博覧会 (International Horticultural Expo 2027, Yokohama, Japan)
- 正式略称：GREEN×EXPO 2027 (グリーン エクスポ ニーゼロニーナナ)
- 開催場所：旧上瀬谷通信施設 (神奈川県横浜市)
- 開催期間：令和9年3月19日(金)～令和9年9月26日(日)
- 参加者数：1500万人 地域連携や ICT (情報通信技術) 活用などの多様な参加形態を含む
- 有料来場者数：1,000万人以上

詳細は、2027年国際園芸博覧会協会WEBサイト

(<https://expo2027yokohama.or.jp>) をご覧ください。

横浜市発信拠点及び展示概要

このたび、本市はこのGREEN×EXPO 2027において、会場のUrban GX Village内に本市の発信拠点を設け、横浜らしいグリーン社会におけるまちや暮らしを全国・世界に向け発信します。この取組の一環として、先端技術・取組の展示にご協賛いただける企業・団体を募集します。出展期間は令和9年3月19日(金)～9月26日(日)を予定しています。



■ 発信拠点の全体像

- ①プロローグ 横浜ならではの新しい未来の姿
- ②行動変容の体験 横浜の市民や企業の皆さまが実践する新たなライフスタイルの体験
- ③先端技術の体験 先端技術と市民力の掛け算による未来の体験
- ④繋がり・交流の体験 市民・企業の皆さまの熱量を発信(活動スペース)
- ⑤エピローグ 新しい循環をつくる未来への参加の呼びかけ

横浜市発信拠点で伝えたいコト

本市は、高い市民力と企業の優れた技術力を有する都市です。この市民力と技術力、それぞれが別個に存在・アピールするのではなく、有機的に交じり合わせることが、本市の役割です。この交わりを、市民が実践するこれからのライフスタイルや先端技術が叶える未来のまちや暮らしとして発信します。国を超えて集うEXPOで、人類共通の未来の課題に、横浜らしい新しい「解」が、発信拠点で伝えたいコトになります。

GREEN × EXPO 2027
発信拠点コンセプト

世界の明日を、みんなでひらく。
Circular City Yokohama

世界をリードするサーキュラーシティとしての発信

行動変容体験

シビックプライドをもとに
市民が実践する
様々なライフスタイル

市民力

技術力

先端技術の体験

大都市における
様々な企業集積による
新しい技術・産業

CITY OF YOKOHAMA



横浜市

発信拠点における「先端技術の体験」展示概要

本展示については、本市が制作する「未来のまちや暮らしの風景」、企業・団体の協賛による先端技術・取組展示の構成及び発信拠点の建物や外構での建材・資材の実装展示での展開を予定しています。

「先端技術・取組の展示」

横浜の都市構造を表す「海・水」「市街地・都市部」「住宅地・郊外部・森」「空・宇宙」のフィールドをベースに、発信拠点の室内又は外構において、「先端技術の体験展示」を行います(次ページ参照)。

①の「未来のまちや暮らしの風景」は企業・団体や市民の皆さまと描き展示表現し、②の「先端技術・取組の展示」は、まちや暮らしを支える企業・団体が有する先端技術や技術を用いた取組※の展示を行います。

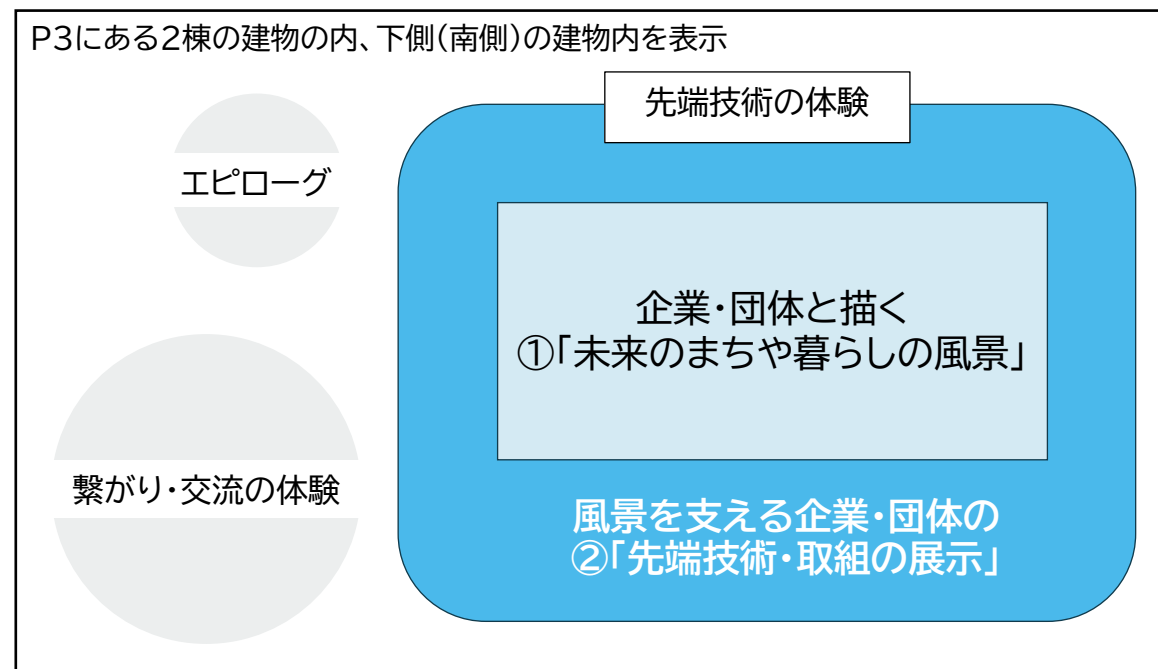
②の先端技術や取組の展示方法は、「触れる、覗く、動かす、探す」などの動作を交えて紹介する等、来館者の好奇心や探求心をくすぐるような体験型の手法を予定しています。

発信拠点の建物や外構での建材・資材の実装展示

建物内のほか、発信拠点の建物や外構において、グリーン社会を実現する技術による機器や装置、設備、建築資材、外部資材を使用することで、環境に配慮した発信拠点の整備、運営を通じた実装展示を行います。

※ 取組の展示とは・・・展示の対象は、グリーン社会の実現に向けた先端技術そのものだけでなく、先端技術を利用・活用した企業・団体による具体的な取組や活動に焦点を当てた展示を指します。例えば、地域と連携した資源循環の仕組み、自然共生を促すプロジェクトなど、実践的な取組を来場者にわかりやすく伝える展示を想定しています。

■「先端技術の体験」スペースのイメージ
(現在計画検討中のため、今後調整・変更の可能性があります。)



※建物・外構は上記スペース以外も含め、出展区画内にて適切な配置を調整します。

本市が制作する「未来のまちや暮らしの風景」の概要

本市が制作する「未来のまちや暮らしの風景」について、詳細は検討中になりますが、概要は次の通りです。

「未来のまちや暮らしの風景」について

横浜は、海・山・河川・市街地・郊外部といった多様なフィールドが混ざり合い、都市機能と自然環境が調和した多様な生活空間が形成されています。この横浜ならではのユニークな都市構造や多彩な暮らしのフィールドを舞台に、横浜という都市のリアリティをもって、未来の暮らしを風景として表現することを検討しています。

検討にあたっては、先端技術を持つ企業・団体と様々なフィールドで活躍する市民の皆さまとともに、ワークショップなどを開催し、共創・協働により「未来のまちや暮らしの風景」を描きます。この「未来のまちや暮らしの風景」を、フィールドごとに創り上げるとともに、横浜ならではの未来のまちや暮らしが連なる1つの大きな風景として、「先端技術の体験」スペースで展示表現する予定です。



イメージ

協賛募集の概要

協賛(展示物、機器・建材等)の募集区分・募集期間

協賛の基本的な区分と募集期間は以下の通りです。

① 展示物の貸出協賛(室内): 令和7年**11月28日まで**

発信拠点南棟に配置する「先端技術の体験」スペースにおける技術展示で使用する展示物の本市への貸出

② 機器・建材等の提供協賛(建物・外構): 令和7年**11月7日まで**

発信拠点建物や外構に設置する機器や装置、設備、建築資材等、外構で使用する資材の本市への貸出や譲渡

③ 設置に伴う施工協賛(外構): 令和7年**11月7日まで**

機器・建材等に付随する外構や区域外で必要となる工事や作業等の役務提供

協賛募集の申込概要

募集要項に沿い、以下提出書類をご準備の上、申込をお願いいたします。

提出書類

- 横浜市出展拠点協賛申込書（様式1と様式1-1）
- 登記事項証明書（発行から3か月以内のものをスキャンデータで送付）
- 誓約書（横浜市暴力団排除条例関係）（様式2）
- 構成員届出書（複数の企業・団体等での申込の場合）（様式3）

※複数の企業・団体等での申込の場合は、構成する企業・団体の登記事項証明書及び誓約書の提出をお願いいたします。

応募方法

提出方法・送付先等は募集要項をご覧ください。

注意事項その他

注意事項やその他詳細は募集要項をご覧ください。

評価方法について

評価方法としては、以下の評価項目・着眼点・評価換算・配点割合とします。

募集要項に沿い、提出書類をご準備の上、お申込をお願いします。

評価項目	評価の着眼点	評価換算	配点割合
コンセプト整合性	「発信拠点における先端技術の展示体験」への協賛の概要を理解した上で、これに連動した提案ができているか。	×2	10/40
新規性・独自性	社会的・環境的課題の解決に向けた視点・アプローチに新規性及び独自性があるか。	×1	5/40
暮らしへの貢献	技術・取組が、関わる人の暮らしや人生をよりよいものにする本質的な価値を提供できるか。	×2	10/40
将来展望と発展性	今後の社会課題や生活ニーズに的確に対応し、未来のまちや暮らしに寄与する可能性があるか。	×2	10/40
共創・協働の可能性	会期中に留まらず会期前後において、市民、企業、行政などの多様な主体との連携・協働の可能性があるか。	×1	5/40

選定後の手続き

選定後、本市と覚書、協賛契約を締結します。詳細は募集・選定スケジュールをご覧ください。

覚書締結

選定後、協賛企業・団体は、本市と共に環共型社会に挑戦するパートナーとして、「GREEN×EXPO 2027 横浜市発信拠点における相互連携に関する覚書」を取り交わします。

主な締結内容(案)

- ① 発信拠点における先端技術の展示体験のための展示物及び機器・建材等の貸出、提供等に向けた協議の実施
- ② 発信拠点内の「イベントスペース」を使用した協賛企業・団体主催イベントの実施
- ③ 発信拠点に関わる持続可能なライフスタイルの普及や行動変容に向けた本市が実施する共創プログラムへの参加
- ④ 発信拠点で実施する共創連携・オープンイノベーション機会への参加
- ⑤ GREEN×EXPO 2027及び発信拠点に関する広報PRの実施

協賛契約

- 協賛いただく展示物及び機器・建材等についての協議を行います。
- 協賛契約の期間は、契約締結の日から令和9年12月までを期間として「協賛契約」を締結します。

相互連携の概要

「GREEN×EXPO 2027 横浜市発信拠点における相互連携に関する覚書」に基づき、以下の取組への参加などに協力いただくことを想定しています。

ワークショップ、市主催プログラムへの参加要請

- 先端技術や取組が叶える未来のまちや暮らしについて、企業・団体、市民、行政が共創・協働して「未来のまちや暮らしの風景」として描き上げるワークショップに参加いただきます。この「未来のまちや暮らしの風景」は、「先端技術の体験」スペースで、本市が展示表現する予定です。
 - 会期前から会期中、そして会期後に、市民の皆さまと発信拠点がつながる市主催プログラムを実施します。発信拠点の完成までのプロセスに参加し愛着を持ってもらうことや、会期中にEXPO会場と会場外のまちや市民をつなぐプログラムを実施するなど、かつてない横浜らしい万博を体験していただく予定です。この市主催プログラムに参加・協力をお願いします。
- ⇒ 覚書締結内容の「③ 発信拠点に関わる持続可能なライフスタイルの普及や行動変容に向けた本市が実施するプログラムへの参加」に基づく協力要請になります。

共創連携への参加要請

- GREEN×EXPO 2027は、最先端のGX技術や知見が集まり、交流する機会となることが期待できます。そのため、発信拠点におけるピッチ、マッチングイベントを計画しており、それらをきっかけとした企業間連携・協業など、レガシーにつながるような取組の実施を検討しています。こうした取組に参加・協力をお願いします。
- ⇒ 覚書締結内容の「④発信拠点で実施する共創連携・オープンイノベーション機会への参加」に基づく協力要請になります。

協賛特典

協賛社の方々には金額規模に応じた特典を付与します。

プラン	500万円以上	100万円以上	100万円未満
呼称権	(仮)トリプルスターパートナー☆☆☆ 「(社名)は(発信拠点名称)に協賛しています。」	(仮)ダブルスターパートナー☆☆ 「(社名)は(発信拠点名称)に協賛しています。」	(仮)シングルスターパートナー☆ 「(社名)は(発信拠点名称)に協賛しています。」
名称表示権	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 発信拠点に設置する看板での協賛企業・団体名一覧(大) ✓ 本市HPでの協賛企業・団体名一覧(大) ✓ 展示物及び機器・建材の設置場所等 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 発信拠点に設置する看板での協賛企業・団体名一覧(中) ✓ 本市HPでの協賛企業・団体名一覧(中) ✓ 展示物及び機器・建材の設置場所等 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 発信拠点に設置する看板での協賛企業・団体名一覧(小) ✓ 本市HPでの協賛企業・団体名一覧(小) ✓ 展示物及び機器・建材の設置場所等
催事招待	調整中(拠点での市主催催事への招待)	調整中(拠点での市主催催事への招待)	
接遇	調整中(拠点内諸室利用・優先入館)		
贈呈品	感謝状・記念品	感謝状	感謝状

上記特典は現在、調整中であり、今後追加・変更が生じる可能性がございます。

選定スケジュール(予定)①

■ 展示物の貸出協賛(室内)の場合

期間・期日	項目
令和7年 10月10日～11月28日	・協賛募集開始 ・申込に関する相談(随時メール・電話等)
令和7年 11月28日	・申込受付締切
令和7年 12月頃	・選定結果の連絡 ・覚書の取り交わし
令和8年 1月～4月頃	・展示物の相談・調整 ・展示物の制作 ・「未来のまちと暮らしの風景」を描くワークショップ
～令和8年 10月までに	・協賛契約の締結
令和8年 11月～12月	・展示物の搬入・設置
令和9年 1～2月	・運営準備・リハーサル・最終調整
令和9年 3月19日	・GREEN×EXPO 2027開会

上記スケジュールは現在、調整中であり、今後変更が生じる可能性がございます。

選定スケジュール（予定）②

- 機器・建材等の提供協賛（建物・外構）
- 設置に伴う施工協賛（外構）

期間・期日	項目
令和7年 10月10日～11月7日	・協賛募集開始 ・申込に関する相談(随時メール・電話等)
令和7年 11月7日	・申込受付締切
令和7年 11月頃	・選定結果の連絡 ・覚書の取り交わし ・機器、建材等の相談・調整
令和8年 1月～4月頃	・「未来のまちと暮らしの風景」を描くワークショップ
～令和8年 12月頃	・協賛契約の締結
適時	・機器、建材等の搬入・設置
令和9年 1～2月	・運営準備・リハーサル・最終調整
令和9年 3月19日	・GREEN×EXPO 2027開会

上記スケジュールは現在、調整中であり、今後変更が生じる可能性がございます。

申込書類「様式1-1」提案の視点

評価は提出書類をもとに行います。「様式1-1」では協賛いただく技術・取組についてご提案いただきます。

評価項目と対応した設問としていきますので、ご検討・ご記入をお願いします。

なお、「様式1-1」の最終頁には、評価対象外の参考情報として、現時点で具体的な展示物候補を想定している場合に展示イメージや仕様を記載するシートを設けています。必要に応じてご記入ください。

1.以下の観点を踏まえ、ご協賛いただく貴社の先端技術・取組についてご記載ください。

- ・先端技術・取組はどのような新規性および独自性を持っていますか。想定される社会的・環境的課題を踏まえて教えてください。
- ・発信拠点における先端技術の展示体験を通し、どのようなことを発信したいですか。
※先端技術・取組の基本情報が確認できるWebサイトのURL等を記載いただくこともできます。

2.以下の観点を踏まえ、貴社技術・取組を通じて目指す未来のイメージを記載ください。

- ・先端技術・取組が、人の暮らしや人生をどのようによりよいものにするか、社会への貢献として「未来のまちや暮らし」にどのように寄与できますか。
- ・「どんな相手が、どう幸せになっていくか」、「まちや暮らしに溶け込みどのように変化が生まれるか」そのイメージを教えてください。
※市民、企業、行政などの多様な主体との関係性や取組の可能性について、会期中に留まらず会期前後にも着眼し記載してください。

■以下の観点を踏まえ、ご協賛いただく貴社の先端技術・取組についてご記載ください。様式1 - 1

- ・先端技術・取組はどのような新規性および独自性を持っていますか。想定される社会的・環境的課題も踏まえて教えてください。
- ・発信拠点における先端技術の展示体験を通じて、どのようなことを発信したいですか。
※先端技術・取組の基本情報が確認できるWebサイトのURL等を記載いただくこともできます。

(例)

・ 先端技術・取組の新規性および独自性、想定される社会的・環境的課題

私たちが協賛する水再利用システムは、上下水道に接続せずに生活排水を再生利用できる、自社独自のシステムです。お風呂・キッチン・洗濯・トイレなどから出る排水を、独自の水処理自律制御技術によって浄化し、再び生活用水として利用可能にすることで、従来の水インフラに依存しない持続可能な暮らしを実現します。

社会的・環境的課題としては、全国的に進む上下水道インフラの老朽化、災害時の断水リスクなどが挙げられます。これらの課題に対し、インフラ更新コストの削減、災害時の水供給の確保、地域の水自給率向上といった多面的な解決策を提供します。

(あれば)上記のシステムのうち●●の技術については特許／●●については●●の認証を取得しています。

・ 発信拠点における先端技術の展示体験を通じて発信したいこと

水を一度使って終わりにするのではなく、繰り返し使うという新しい考え方を通じて、持続可能な暮らしのあり方を発信したいと考えています。水再利用システムの展示体験を通じて、限られた資源を大切に使うことの重要性や、インフラに頼らずに生活できる選択肢があることを来場者に伝え、災害時や水不足の場面でも安心して暮らせる未来のまちの姿を具体的に感じてもらいたいと考えています。

(任意)
写真や図

(任意)
写真や図

※ご記入いただく内容の分量に特に制限はございませんので、必要に応じて自由にご記載ください。

■以下の観点を踏まえ、貴社技術・取組を通じて目指す未来のイメージを記載ください。

- ・先端技術・取組が、人の暮らしや人生をどのようによりよいものにするか、社会への貢献として「未来のまちや暮らし」にどのように寄与できますか。
- ・「どんな相手が、どう幸せになっていくか」、「まちや暮らしに溶け込みどのように変化が生まれるか」そのイメージを教えてください。
※市民、企業、行政などの多様な主体との関係性や取組の可能性について、会期中に留まらず会期前後にも着眼し記載してください。

(例)

・ 先端技術・取組が「未来のまちや暮らし」にどのように寄与するか

水再利用システムは、限られた水資源を繰り返し使えるしくみを提供することで、持続可能な暮らしの基盤づくりに寄与します。上下水道などの大規模なインフラに頼らずに水を使える環境を整えることで、災害時や水不足の地域でも安定した生活が可能となり、インフラの脆弱性を補う新たな選択肢を提示します。

また、地域ごとの水の自給自足を促進することで、環境負荷の軽減とともに、柔軟で強いまちづくりに貢献します。

・ 「どんな相手が、どう幸せになっていくか」「まちや暮らしに溶け込みどのように変化が生まれるか」そのイメージ

この技術は、災害時の避難生活においても水を確保できることで、子どもから高齢者まで幅広い世代が安心して過ごせる環境を提供します。水再利用システムは、「水は使い捨てるもの」から「繰り返し使うもの」へという意識の転換を促し、資源を大切にすることが日常の一部として根づくことで、災害時やインフラが使えない状況でも自分たちで水を確保できるという安心感が地域に広がっていき、人々の価値観を少しずつ変えていく力を持っており、未来の暮らしに穏やかな変化をもたらします。

(任意)
写真や図

(任意)
写真や図

※ご記入いただく内容の分量に特に制限はございませんので、必要に応じて自由にご記載ください。

■参考:現時点で想定している協賛展示物の内容

・現時点で、ご協賛いただける展示物の具体的な候補があれば、以下にイメージや仕様をご記載ください。別途資料を添付することもできます。

※高さ〇〇mm、幅〇〇mm、奥行〇〇mm、重さ〇〇kg、数量〇〇基、納期:〇か月程度など分かる範囲で記載してください。

※あくまでも参考であり、評価項目及び配点対象外です。また、実際の展示は選定後、協議の上で決定となります。

(例) 展示物の設置イメージ:

生活排水を再利用する小型の水再利用ユニットを想定しています。手洗いやシャワーなどで使用した水が、リアルタイムで浄化・再利用される様子を体験できるユニット構成です。

また、水質管理機能を備えており、来場者が水の再利用プロセスを視覚的に理解できるよう、透明な配管やモニター表示を組み合わせた設計を予定しています。

(例) <仕様>

高さ 〇〇mm

幅 〇〇mm

奥行 〇〇mm

重さ 〇〇kg

数量 〇〇基

納期: 〇か月程度(例:〇年〇月発注の場合、〇年〇月納品)

設置方法での留意事項など

(任意)
写真や図

(任意)
写真や図

※ご記入いただく内容の分量に特に制限はございませんので、必要に応じて自由にご記載ください。